

「第3次豊中アジェンダ21」2021年度評価

<評価の対象・項目>

- ・「第3次豊中アジェンダ21」でも引き続き、毎年実績を検証・評価し、行動提案は総会にて公表。

評価項目	関係	頻度	公表の方法
環境目標	環境基本計画と共有	毎年	豊中市環境報告書
行動提案		毎年	とよなか市民環境会議 総会

- ・「第2次豊中アジェンダ21」は個別の行動提案ごとに評価を実施していたが、「第3次豊中アジェンダ21」では望ましい環境都市像のテーマごとの総合評価に変更。
- ・評価項目や個別の評価指標は、状況に応じて追加・見直しをしながら運用していく。

項目	評価指標	評価方法
①統計や行政の行動の指標	行動提案と一緒に記載の 評価指標	数値の増減を前年度比で比較
②市民・事業者の行動の指標		
③構成団体チェックシート	行動提案の平均実施率	数値の増減を前年度比で比較
④市民の取組みの質的な評価	文章を作成して表現	状況の改善などを数値に換算
総合評価		①～④の評価をあわせて数値化

※一部のテーマでは適当な取組みがないため、市民・事業者の行動の指標を設定していない

<評価の記載方法（総合評価のまとめ）>

テーマごとの総合評価の結果を記載

昨年度の結果と比較できます

関連するSDGs の主なテーマ	望ましい環境都市像		総合評価の結果	(参考) 昨年度の結果
17 パートナーシップで 目標を達成しよう	市民参加・ 協働	地域の環境活動に市民・事業者が参加し、行政とともに協働で取り組むまち	B (5点)	C
12 つくる責任 つかう責任	人にやさしい	多様な世代が地域の中でつながり、安全・安心に住み続けやすいまち	C (0点)	C

}

}

2021年度 総合評価のまとめ	0.8点 ※全テーマの平均	0.4点
B評価が3つ、C評価が8つ、D評価が1つで、前年度よりB評価が2つ増えた一方で、D評価も1つ増えました。(以下略)		

まとめの内容を
文章にてコメント

テーマごとの総合評価の結果を点数化し、平均した値を10点満点に計算
※プラスの値：進捗とみなす

<評価の記載方法（各テーマごとの総合評価）>

直近の数値（2021）について、前年度（2020）からの増減を表しています

項目	指標名	2019	2020	2021	増減等
①統計や行政の行動の指標	とよなか市民環境会議の構成団体数	139 団体	136 団体	134 団体	△2 団体
②市民・事業者の行動の指標	市民、事業者の環境活動の取組み事例数	76 件	26 件	—	△50 件

2021 年度の数値がない場合は網掛けをし、「—」と記載しています。この場合、2020 年度の数値について 2019 年度からの増減を表しています

④市民参加の質的な評価	とよなか市民環境会議では、市民参加・協働が参加・協働できる企画の試行を検討しました。	市民の状況を文章で説明し、3 段階で評価をします	△
【市民参加・協働】の総合評価			B
<p><総合評価の補足説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・②市民、事業者の環境活動の取組み事例数の 2021 年度の数値が判明するのは（以下略） ・②とよなか市民環境展は、2021 年度も新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの開催となりました。（以下略） 			

指標の数値に現れない説明などを記載し、総合評価の際に考慮しています

①～④の評価を総合し、5 段階で評価をします

<数値等の引用や作成>


- ・①豊中市（行政）が主に把握している数値。
- ・②NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21、および豊中市が把握している市民の取組みの数値。
- ・③とよなか市民環境会議の構成団体（134 団体）を対象に、2022 年 3～4 月に実施し、57 団体が回答。
- ・④とよなか市民環境会議で作成。

<評価の手順>

- ・①②でテーマごとに設定している指標の数値を各年度に入れる。
- ・③は構成団体から回答された実施率を計算し、各年度に入れる。
- ・直近の数値（2021 年度）について、前年度（2020 年度）と比較し、前年度からの増減を記載する。増減の割合に応じて評価する。
 - ※直近の数値が把握できていない場合は、前年度（2020 年度）と前々年度（2019 年度）の数値を比較。
- ・④は①～③以外の内容について、市民の活動状況を文章で説明して評価する。
 - ※文章の内容を、良い◎・普通○・課題がある△の 3 段階に換算して表現する。
- ・①～④の評価を総合し、5 段階で評価する。
 - ※高い評価 A・評価できる B・普通 C・少し課題がある D・とても低い評価 E
 - ※評価の際には、<総合評価の補足説明>の内容を考慮する。

-
- ・テーマごとの A～E の総合評価を点数に換算する（A：10 点、B：5 点、C：0 点、D：-5 点、E：-10 点）。
 - ・換算した点数の平均を計算し、10 点満点で評価する。（※小数第 2 位を四捨五入する）
 - ・10 点満点の数値がプラスであれば、望ましい環境都市像の実現に向けて進捗をした、また、数値がマイナスであれば、望ましい環境都市像の実現に向けて後退したとみなす。

<2021年度 総合評価のまとめ>

関連する SDGs の主なテーマ		望ましい環境都市像		総合評価 の結果	(参考) 昨年度 の結果
 17 パートナーシップで 目標を達成しよう	パートナーシップで 目標を達成しよう	市民参加・ 協働	地域の環境活動に市民・事業者が参加し、行政とともに協働で取り組むまち	B (5点)	C
 12 つくる責任 つかう責任	つくる責任 つかう責任	人にやさしい	多様な世代が地域の中でつながり、安全・安心に住み続けやすいまち	C (0点)	C
 11 住み続けられる まちづくりを	住み続けられる まちづくりを	まちづくり	地域活動が活発で、地域の特徴に応じたまちづくりができるまち	C (0点)	C
 4 質の高い教育を みんなに	質の高い教育を みんなに	環境学習・ 環境教育	みんなが環境についてともに学び、行動に取り組むまち	C (0点)	C
 13 気候変動に 具体的な対策を	気候変動に 具体的な対策を	地球環境	地球温暖化を今よりも進めないため、自分にできることから取り組むまち	C (0点)	C
 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	エネルギーをみんなに そしてクリーンに	エネルギー	くらしの中で省エネルギーを意識し、みんなで自然エネルギーの導入に取り組むまち	B (5点)	C
 11 住み続けられる まちづくりを	住み続けられる まちづくりを	交通	歩きやすく、自転車で走りやすく、公共交通の便利なまち	C (0点)	B
 12 つくる責任 つかう責任	つくる責任 つかう責任	省資源・ 循環型社会	ごみになるものを減らし、資源として循環することができるまち	B (5点)	C
 2 飢餓を ゼロに	飢餓を ゼロに	食・農	地産地消で広がる生き生き農業と、「とよっぴー」を紡いで食育が実感できるまち	C (0点)	C
 15 陸の豊かさ を守ろう	陸の豊かさ を守ろう	自然との共生	多様な生き物がすみ、みどり豊かで、水辺に親しむことができるまち	C (0点)	C
 11 住み続けられる まちづくりを	住み続けられる まちづくりを	歴史・文化	身近なところで、育んできた歴史・文化・景観を感じられるまち	D (-5点)	C
 6 安全な水とトイレを 世界中に	安全な水とトイレを 世界中に	音・水・大気	騒音や有害な化学物質のない、きれいな水や空気があるまち	C (0点)	C
 14 海の豊かさ を守ろう	海の豊かさ を守ろう				
2021年度 総合評価のまとめ				0.8 点 ※全テーマ の平均	0.4 点
<p>B評価が3つ、C評価が8つ、D評価が1つで、前年度よりB評価が2つ増えた一方で、D評価も1つ増えました。新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度よりも数値が向上したものの、2019年度の実績には及ばないケースが複数ありましたが、前年度からの改善として評価しています。構成団体の行動提案の実施率は、前年度と反対で、事業者に関する取組みの実施率が向上し、家庭での取組みの実施率が低下しました。</p>					

<2021年度 各テーマごとの総合評価>

【市民参加・協働】地域の環境活動に市民・事業者が参加し、行政とともに協働で取り組むまち

項目	指標名	2019	2020	2021	増減等
①統計や行政の行動の指標	とよなか市民環境会議の構成団体数	139 団体	136 団体	134 団体	△2 団体
②市民・事業者の行動の指標	市民、事業者の環境活動の取組み事例数	76 件	26 件	—	△50 件
	とよなか市民環境展の来場者数、出展団体数	3,600 人 43 団体	691 人 32 団体	1,682 人 32 団体	991 人 0 団体
	環境交流センター利用者数、会議室等利用回数	18,354 人 422 回	9,822 人 388 回	11,900 人 434 回	2,078 人 46 回
	市民環境展への協賛・寄付	241,936 円	46,400 円	246,311 円	199,911 円
③構成団体チェックシート	行動提案の 7 項目の平均実施率	40.43%	40.86%	47.12%	6.26%
④市民参加の質的な評価	とよなか市民環境会議では、活動の強化をめざして活性化の取組みを検討しましたが、具体化には至りませんでした。				△
【市民参加・協働】の総合評価					B
<p><総合評価の補足説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・②市民、事業者の環境活動の取組み事例数の 2021 年度の数値が判明するのは 2022 年 7 月以降となるため、2020 年度の数値を直近の値として評価しています。 ・②とよなか市民環境展は、2021 年度も新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの開催となりました。来場者数、寄付・協賛はいずれも増加したものの、2019 年度と比べると来場者数は大幅に下回っています。しかしながら、豊中市内で 1,500 人以上の集客を対面で行ったイベントは他に例がなく、この規模で開催できたことは評価できると言えます。 ・②環境交流センター利用者数、会議室等の利用回数は、いずれも増加しました。利用者数は 2019 年度より下回るものの、会議室等の利用回数は臨時休館の期間を除いた月平均の回数で見ると、大幅に向上しました。 ・③構成団体の行動提案の実施状況は、「ネットワーク・情報交流」の実施率が約 10% 向上したことにより、テーマ全体の実施率も向上しました。 ・今後は、とよなか市民環境会議の構成団体数や市民、事業者の環境活動の取組み事例など、減少傾向にある指標について、改善していくことが求められます。「第 3 次豊中アジェンダ 21」の見直しなどを契機に、構成団体の拡充や取組み事例の把握などを強化していくことが考えられます。 					

【人にやさしい】多様な世代が地域の中でつながり、安全・安心に住み続けやすいまち

項目	指標名	2019	2020	2021	増減等
①統計や行政の行動の指標	とよなか百万歩ウォーク参加者数	1,253 人	2020 年度以降は開催していない		=
②市民・事業者の行動の指標	NPO アジェンダ（企画屋本舗）行事参加者数	80 人	30 人	45 人	15 人
	環境マネジメントシステムの導入事業所数	37 件	29 件	31 件	2 件
③構成団体チェックシート	行動提案の 5 項目の平均実施率	59.25%	62.79%	60.70%	△2.09%
④市民参加の質的な評価	豊中市上下水道局によるマンホールウォークラリーが開催されるなど、新たなまち歩きの企画が実施されています。				○
【人にやさしい】の総合評価					C
<p><総合評価の補足説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ①とよなか百万歩ウォークは、大阪府全体で実施する別事業へと移行したため、2020 年度以降は未実施となっています。 ②NPO アジェンダ（企画屋本舗）の参加者数は、増加しました。新型コロナウイルス感染症対策のため、募集の定員が少ないことなどもあり、2019 年度よりは大きく下回っています。 ③構成団体の行動提案の実施状況は、全体として横ばいでした。行動提案「自動車の利用を控えて健康と環境のためにできるだけ歩くとともに、歩いて楽しいまちをみんなで作ろう」の実施率が 10%減少した一方で、環境マネジメントシステムに関する行動提案の実施率が 10%以上も向上しました。 今後は、「第 3 次豊中アジェンダ 21」の見直しを契機に、新型コロナウイルス感染症の影響も考慮しながら、地域でのつながりや、環境分野における安心・安全のあり方に関する新たな指標の設定を検討する必要があります。 					

【まちづくり】地域活動が活発で、地域の特徴に応じたまちづくりができるまち

項目	指標名	2019	2020	2021	増減等
①統計や行政の行動の指標	地域清掃活動登録企業数	11 団体	12 団体	12 団体	0 団体
	生垣緑化助成件数	5 件	5 件	2 件	△3 件
②市民・事業者の行動の指標	みどりのカーテン参加団体数	64 団体	64 団体	64 団体	0 件
	花いっぱい運動実施場所数	31 か所	34 か所	37 か所	3 か所
③構成団体チェックシート	行動提案の 5 項目の平均実施率	51.32%	48.84%	57.19%	8.35%
④市民参加の質的な評価	特筆すべき新たな動きはありませんでしたが、地域清掃や地域での緑化などの市民活動は着実に実施されています。				○
【まちづくり】の総合評価					C
<p><総合評価の補足説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・②花いっぱい運動実施場所数は、長らく横ばいでしたが、ここ 2 年間は上昇傾向にあります。 ・③構成団体の行動提案の実施状況は、このテーマの行動提案それぞれの実施率が上昇したことにより、全体として約 8%向上しました。 ・今後は、「第 3 次豊中アジェンダ 21」の中間見直しにおいて、地域の特徴に応じたまちづくりにつながるような行動提案や評価指標について検討していくことが求められます。 					

【環境学習・環境教育】みんなが環境についてともに学び、行動に取り組むまち

項目	指標名	2019	2020	2021	比較等	
①統計や行政の 行動の指標	出前環境学習の実施回数	22回	3回	11回	8回	
	緑化リーダー養成講座受講者数	41人	18人	25人	7人	
②市民・事業者の 行動の指標	NPO アジェンダ（事業部会）の行事 参加者数	25人	57人	60人	3人	
③構成団体 チェックシート	行動提案の4項目の平均実施率	48.11%	48.26%	49.12%	0.86%	
④市民参加の 質的な評価	新型コロナウイルス感染症の影響などにより、環境活動でもインターネットを使った行事の申込みやオンライン会議などは広がりつつありますが、子どもを対象とした環境学習・環境教育などは、引き続き現場での対面実施が中心となっています。				△	
【環境学習・環境教育】の総合評価						
<p><総合評価の補足説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・①出前環境学習の実施回数は、大きく増加しましたが、2019年度と比べると、半分程度の回数に留まっています。 ・①緑化リーダー養成講座受講者数は、2019年度までは初級・中級・上級コースの3か年の合計でしたが、2020年度からは基礎・応用コースの2か年の合計となったため、参加者が半数程度となっています。 ・③構成団体の行動提案の実施状況は、全体として横ばいでしたが、行動提案「従業員が環境について学ぶ機会を作ろう」の実施率が10%以上も向上しました。 ・今後は、環境活動に関心の少なかった市民へのアプローチを進めることで、環境学習・環境教育の拡充につなげていくことが求められています。そのために、SNSやオンラインをはじめとしたツールの活用も含めて、これからのあり方を検討していくことが必要です。 						C

【地球環境】地球温暖化を今よりも進めないため、自分にできることから取り組むまち

項目	指標名	2019	2020	2021	増減等
①統計や行政の行動の指標	1人あたり温室効果ガス排出量	3.00 t-CO2	3.21 t-CO2	—	0.21 t-CO2
②市民・事業者の行動の指標	対象事業（環境交流センター）の参加者数	101人	27人	72人	45人
③構成団体チェックシート	行動提案の3項目の平均実施率	69.18%	70.54%	63.74%	△6.80%
④市民参加の質的な評価	協働の取組みの意見交換会では、地球温暖化対策をテーマに実施し、大学生から保育園までの多様な主体と協働した取組みを取り上げ、現状の把握と今後の展望について議論を行いました。				◎
【地球環境】の総合評価					
<p><総合評価の補足説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・①1人あたり温室効果ガス排出量の2021年度の数値が判明するのは2022年7月以降となるため、2020年度の数値を直近の値として評価しています。なお、2020年度の数値では全体として増加しました。運輸部門や廃棄物部門の排出量は減少しましたが、家庭部門や業務部門の排出量は増加しました。 ・②対象事業（環境交流センター）の参加者数は、大幅に増加したものの、2019年度と比べると下回っています。なお、2021年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、参加者の約半数がオンラインでの参加となりました。 ・③構成団体の行動提案の実施状況は、「地球環境」の実施率が約10%減少したことなどから、全体の実施率も減少しました。 ・今後は、豊中市が改定した「第2次豊中市地球温暖化防止地域計画（改定）～とよなか・ゼロカーボンプラン～」の推進も含めて、市民にゼロカーボンに向けた取組みを広く進めていくことが求められます。 					

C

【エネルギー】くらしの中で省エネルギーを意識し、みんなで自然エネルギーの導入に取り組めるまち

項目	指標名	2019	2020	2021	増減等	
①統計や行政の行動の指標	1人あたりのエネルギー消費量	33.9GJ	36.2GJ	—	2.3GJ	
	太陽光発電補助による導入量	296kw	376kw	364kw	△12kw	
②市民・事業者の行動の指標	市民向け地球温暖化対策省エネ推進事業によるCO2削減量	3,635kg	4,638kg	12,723kg	8,085kg	
	エコポイントチケット「とよか」配布枚数	7,465枚	2,540枚	4,119枚	1,579枚	
③構成団体チェックシート	行動提案の6項目の平均実施率	80.19%	76.74%	76.02%	△0.72%	
④市民参加の質的な評価	新型コロナウイルス感染症の影響で、これまでよりも家庭で在宅の時間が増えたことにより、家庭でのエネルギー消費に関する関心が高まりつつあることが、市民向け地球温暖化対策省エネ推進事業の実施などから感じられています。				○	
【エネルギー】の総合評価						
<p><総合評価の補足説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ①1人あたりのエネルギー消費量の2021年度の数値が判明するのは2022年7月以降となるため、2020年度の数値を直近の値として評価しています。なお、2020年度の数値は、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの家庭で在宅の時間が増えたことが影響していると考えられます。 ②市民向け地球温暖化対策省エネ推進事業によるCO2削減量は、大幅に増加しました。エコドライブキャンペーンの削減効果が例年よりも大幅に改善したことなどが理由となっています。 ②エコポイントチケット「とよか」配布枚数は、大幅に増加しましたが、2019年度と比べると大きく下回っています。 ③構成団体の行動提案の実施状況は、全体として横ばいでしたが、高い実施率を維持しています。ただし、再生可能エネルギーなどの「創エネルギー」の実施率は、50%を下回っています。 ・今後は、新型コロナウイルス感染症を契機としたライフスタイルの変化をふまえて、家庭や事業所でのカーボンゼロに向けた取組みの推進が求められます。 						B

【交通】歩きやすく、自転車で走りやすく、公共交通の便利なまち

項目	指標名	2019	2020	2021	増減等
①統計や行政の 行動の指標	自動車保有台数（総数）	153,027台	152,370台	152,074台	△296台
	電気自動車充電スタンド数	29か所	29か所	28か所	△1か所
	阪急電車の利用者数	182,362人	138,666人	—	△43,696人
	カーシェアリングの台数	247台	243台	288台	45台
	自転車通行空間整備状況	5.69km	8.86km	12.15km	3.29km
②市民・事業者の 行動の指標	エコドライブキャンペーンの参加者数	81人	113人	117人	4人
③構成団体 チェックシート	行動提案の14項目の平均実施率	46.90%	52.66%	51.13%	△1.53%
④市民参加の 質的な評価	新型コロナウイルス感染症の影響により、宅配便の「置き配」が定着しつつある一方、国の調査では再配達率が11.9%と、前年同月の11.4%から増加しており、在宅時間の減少などが指摘されています。				△
【交通】の総合評価					
<p><総合評価の補足説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ①自動車保有台数（総数）は減少傾向が続いており、2017年度からの4年間で約2,700台が減少しました。一方で、カーシェアリングの台数は2020年度が横ばい状態であったものの、2017年度からの4年間で約90台増加しました。 ①阪急電車の利用者数の2021年度の数値が判明するのは2022年7月以降となるため、2020年度の数値を直近の値として評価しています。 ③構成団体の行動提案の実施状況は、全体として横ばいでしたが、「公共交通機関の利用促進」の実施率が10%近く減少しました。 今後は、「第3次豊中アジェンダ21」の中間見直しにおいて、市民のライフスタイルのあり方にあわせた行動提案や取組み、評価指標などについて検討していくことが求められます。 					C

【省資源・循環型社会】ごみになるものを減らし、資源として循環することができるまち

項目	指標名	2019	2020	2021	増減等
①統計や行政の 行動の指標	1人1日あたりのごみ量	820g	813g	—	△7g
	環境関連施設の見学者数	16,657人	7,478人	11,211人	3,733人
②市民・事業者の 行動の指標	マイバッグ持参率	80.9%	84.8%	—	3.9%
	豊中エコショップ認定店舗数	142店	158店	174店	16店
	リサイクル工作参加者数	47人	33人	51人	18人
③構成団体 チェックシート	行動提案の8項目の平均実施率	64.86%	65.99%	66.01%	0.02%
④市民参加の 質的な評価	新型コロナウイルス感染症の影響により、地域や学校・園でのバザー等が中止になる一方で、環境交流センターで回収した子ども服は例年の約3倍に増加しました。また、豊中市が市民団体と共同で社会実験し、これまでに回収した子ども服約6,000着を市民に配布しました。				◎
【省資源・循環型社会】の総合評価					B
<p><総合評価の補足説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・①1人1日あたりのごみ量、及び②マイバッグ持参率の2021年度の数値が判明するのは2022年7月以降となるため、2020年度の数値を直近の値として評価しています。 ・①環境関連施設の見学者数（3つの施設の合計人数）は、大幅に増加しましたが、2019年度と比べると、かなり大きく下回っています。 ・③構成団体の行動提案の実施状況は、全体としては横ばいでしたが、廃棄物の削減など「事業者の心がけ」の実施率が約8%上昇しました。 ・今後は、新型コロナウイルス感染拡大防止によるライフスタイルの変化で増加しているプラスチックごみなども含めて、「第3次豊中アジェンダ21」の中間見直しにおいて、市民のライフスタイルのあり方にあわせた行動提案や取り組みなどについて検討していくことが求められます。 					

【食・農】地産地消で広がる生き生き農業と、「とよっぴー」を紡いで食育が実感できるまち

項目	指標名	2019	2020	2021	増減等
①統計や行政の 行動の指標	「とよっぴー」製造量	88.7t	76.2t	92.9t	16.7t
	地域産野菜等の学校等給食提供回数	132回	130回	109回	△21回
	市民農園申込者数	1,674人	1,462人	1,319人	△143人
②市民・事業者の 行動の指標	「とよっぴー」の購入者数	1,034人	800人	964人	164人
	地産地消野菜の購入者数	1,924人	1,189人	1,195人	6人
	食育学習の回数、参加者数	124回 5,062人	40回 982人	68回 1,476人	28回 494人
③構成団体 チェックシート	行動提案の6項目の平均実施率	51.89%	62.02%	53.51%	△8.51%
④市民参加の 質的な評価	指標②で把握している以外の地元産野菜の販売についても、多くは活動を再開しました。ただし、指標②と同様に、2019年度と比べると、実施方法や参加人数などで何らかの制約や影響を受けることが多くなっています。				○
【食・農】の総合評価					
<p><総合評価の補足説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ①「とよっぴー」の製造量は、2019・2020年度が臨時休校による食品残渣の減少があり、それに比べて2021年度の製造量は増加しました。ただし、2018年度以前の製造量よりは減少しています。 ①学校等給食提供回数は、虫の発生や農家の高齢化の影響により、2021年度はお米の生産量が少なくなったため、他府県産のお米に変更となりました。 ②「とよっぴー」の購入者数、地産地消野菜の購入者数、食育学習の回数や参加者数は、いずれも増加や横ばいでしたが、2019年度と比べると、いずれも大きく下回っています。 ③構成団体の行動提案の実施状況は、食品ロスをなくすといった「資源循環」や、「食育」活動の推進の実施率が約10%減少しました。 今後は、新型コロナウイルス感染症の影響により減少した指標等について、以前の水準に戻るまでは当面難しいと考えられるため、市民が食や農にふれる多様な機会を確保していくことが引き続き求められます。 					C

【自然との共生】多様な生き物がすみ、みどり豊かで、水辺に親しむことができるまち

項目	指標名	2019	2020	2021	増減等
①統計や行政の 行動の指標	緑被率	調査年ではないため 未実施		12.9%	=
	特定外来生物措置件数	16 件	13 件	16 件	3 件
	タヌキ・キツネの相談件数	11 件	5 件	12 件	7 件
	ため池の箇所数	36 か所	36 か所	36 か所	0 か所
②市民・事業者の 行動の指標	NPO アジェンダ（自然部会）行事参加者数	717 人	534 人	595 人	61 人
	自主管理登録団体数	174 団体	172 団体	169 団体	△3 団体
③構成団体 チェックシート	行動提案の 13 項目の平均実施率	48.77%	48.12%	49.93%	1.81%
④市民参加の 質的な評価	とよなかエコ市民賞 2021 では、刀根山高校が地域と協働したホテル復活プロジェクトの取組みにより受賞しました。また、豊中市伊丹市クリーンランドが、豊中・伊丹両市の市民と協働で樹種を選定して植樹した取組みなどが評価され、おおさか優良緑化賞の大阪府知事賞と生物多様性賞を受賞しました。				◎
【自然との共生】の総合評価					
<p><総合評価の補足説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ①緑被率は、前回調査が 2015 年度であったため、2019・2020 年度の数値は空欄となり、増減等を行っていません。なお、2015 年は 14.4%であったため、6 年間で 1.5%も減少しました。これは豊中市域面積における樹林樹木の面積が 54.9ha（豊島公園 9 個分）も減少した計算になります。 ③構成団体の行動提案の実施状況は、直近の 3 年間で傾向に変化がありませんでした。行動提案では「豊中市内の身近な自然を調べ、市民、事業者、行政で情報を共有して交流し合おう」の実施率が、約 18%も上昇しました。 今後は、2021 年度に調査されたみどり率・緑被率について分析し、みどり率・緑被率の向上に向けた緑化や保全のあり方について検討していくことが求められます。 					C

【歴史・文化】身近なところで、育んできた歴史・文化・景観を感じられるまち

項目	指標名	2019	2020	2021	増減等
①統計や行政の 行動の指標	景観に関する協定件数	2件	2件	2件	0件
	指定文化財数	87件	87件	87件	0件
	保護樹、保護樹林数	139本 10件	137本 10件	135本 9件	△2本 △1件
②市民・事業者の 行動の指標					
③構成団体 チェックシート	行動提案の3項目の平均実施率	59.75%	60.47%	50.29%	△10.18%
④市民参加の 質的な評価	市民が歴史や文化に触れる機会として、2021年度は豊中の里地として小曽根・浜周辺を歩く行事や、勝部遺跡収蔵庫や千里川の自然観察を行う子ども対象の行事が開催されました。				○
【歴史・文化】の総合評価					D
<p><総合評価の補足説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・①保護樹林について、長らく10件でしたが、2021年度に1件減少しました。保護樹も2017年度の140本をピークに減少傾向にあります。 ・③構成団体の行動提案の実施状況は、「歴史」「景観」とともに実施率が約10%減少しました。 ・今後は、市民が歴史や文化に触れる行事について、市民・事業者の行動の指標とするなどの設定が考えられます。 					

※現時点では、市民・事業者の行動の指標が設定されていません。

【音・水・大気】騒音や有害な化学物質のない、きれいな水や空気があるまち

項目	指標名	2019	2020	2021	増減等
①統計や行政の 行動の指標	環境基準達成状況（大気・水質・道路 騒音・航空機騒音・ダイオキシン）	88.0%	88.0%		0.0%
		97.2%	97.2%		0.0%
		95.0%	94.5%	—	△0.5%
		0.0%	12.5%		12.5%
		100.0%	100.0%		0.0%
	公害関係苦情件数（大気汚染・水質汚 濁・騒音）	100 件	104 件	99 件	△5 件
	雨水貯留タンク助成件数	6 件	13 件	10 件	△3 件
	1 人 1 日平均給水量	239 ℓ	249 ℓ	247 ℓ	△2 ℓ
②市民・事業者の 行動の指標					
③構成団体 チェックシート	行動提案の 6 項目の平均実施率	70.13%	70.16%	69.88%	△0.28%
④市民参加の 質的な評価	音・水・大気については、各家庭での実践により進められている部分が大きくなっています。引き続き、行動提案を実現するための取組みを設定することなどが課題です。				○
【音・水・大気】の総合評価					
<p><総合評価の補足説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ①環境基準達成状況の 2021 年度の数値が判明するのは 2022 年 7 月以降となるため、2020 年度の数値を直近の値として評価しています。 ①航空機騒音は、これまですべての観測地点で基準に達することがなく、0.0%を継続していましたが、2021 年度に初めて 1 地点で基準を下回りました。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響による航空機の離着陸が大幅に減少したことが要因となっています。 ①公害関係苦情件数について、過去 3 年間で大気汚染は 27→24→16 件と減少傾向ですが、騒音は 73→80→82 件と上昇傾向にあります。また、過去 3 年間は 0 件であった水質汚濁が 1 件ありました。 ③構成団体の行動提案の実施状況は、過去 3 年間の傾向に変化がありませんでした。「音」「水」「大気」のいずれも高い実施率となっています。 ・今後は、市民や事業者が実践できる身近な行動の指標が求められます。 					C

※現時点では、市民・事業者の行動の指標が設定されていません。